



2022年（令和4年）が始まりました。

2022年は、干支は「壬寅（みずのえとら）」。

「壬寅」は厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージなのだそうです。新しい芽が「成長する」、新しい日常が「始まる」、希望を膨らませながら進む年にしたいですね。とはいえ、年明けから、県内でも新型コロナウイルス、オミクロン株の感染が拡大している状況があります。引き続き、検温、手洗い、換気、マスクの着用など、基本的な感染症対策を徹底して、正



しく理解して、冷静に対応し、できることを工夫しながら日々を充実させていきましょう。

朝、校門で迎えた時の生徒の様子では、「おはようございます」のあいさつが言葉も気持ちもよく伝わってきて、それぞれ新年を迎え、新たな気持ちでがんばろうという決意を感じました。

始業式では、各学年から1人ずつ、3人の代表生徒が3学期に向けての決意を語りました。1年5組の吉満ゆいさんは、家族のつながりを感じた冬休みだったと語った上で、生活習慣の見直し、学力向上に向けて復習に励むこと、挑戦することの3つの目標を挙げてくれました。2年1組の酒匂瑞希さんは、学習面を充実させたいこと、残り半年となった部活動を精一杯がんばりたいこと、延期された修学旅行では、各クラスのよさを発揮して素晴らしいものにしたいと語ってくれました。3年2組の笹木雅治さんは、年末年始も勉強に励む毎日だったこと、入試に向けてみんながそれぞれの力を十分に発揮できるよう総務として盛り上げていきたいと語ってくれました。3人とも本当に素晴らしい話をしてくれました。

校長講話では、1月6日（木）の新聞に記事が掲載されたことを取り上げ、寺山炭窯跡の立体模型にしてガイドの際に活用するという取り組みは、郷土のよさを知り発信すること、話を聞く人にお土産となるものを準備したいという人を喜ばせたいという思い、友達と知恵を出し合い柔軟な発想によってオリジナルのものを作っていることの3つの素晴らしさがあるという話をしました。

また、令和4年の4月1日から成人年齢が18歳に引き下げられることについても触れました。民法が定めている成年年齢は、「一人で契約をすることができる年齢」という意味と「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味があります。例えば、携帯電話を契約する、一人暮らしの部屋を借りる、クレジットカードをつくる、高額な商品を購入したときにローンを組むといったとき、未成年の場合は親の同意が必要です。しかし、成年に達すると、親の同意がなくても、こうした契約が自分一人ですることができるようになります。また、自分の住む場所、進学や就職などの進路なども自分の意思で決定できるようになります。さらに、10年有効のパスポートを取得したり、公認会計士や司法書士、行政書士などの資格を取得したりすることもできるようになります。

成人になるとそのような自由（権利）が増える一方で、義務と責任も増えます。ですの
で判断を間違えて、被害に遭ったり問題に巻き込まれたりしないように、正しい知識と理
解を身に付け、判断力を鍛えてほしい。3年生はあと3年で、2年生はあと4年で、1年
生はあと5年で成人を迎えます。あまり年月はありません。この3学期から、「**自分のこ
とは自分です・自分でできる**」ようになってほしい。起床や就寝時間の管理、部屋の片
付け、衣服の整理、洗濯、簡単な料理など、一つずつでも自分でできることを増やしてい
ってほしいという話をしました。御家庭でも話題にしてみてください。

3学期こそ、ワクワクする教育活動を展開し、「吉野東中でよかった。吉野東中に行き
たい。」と思える学校づくりを目指して挑戦してまいります。

3年1組芝崎葉音さん、都大路を駆け抜けろ！



推戴式で決意を述べる 芝崎 葉音 さん

3年1組の芝崎葉音さんが、令和4
年1月16日（日）に京都市で開催さ
れる「皇后杯第40回全国都道府県対
抗女子駅伝競走大会」に鹿児島県選手
団の一員として出走します。一山麻緒
選手、廣中璃梨佳選手、田中希実選手、
不破聖衣来選手など、話題の選手が出
走するこの大会。42.195kmを9
つの区間に分けて成人女子、学生が襻
をつなぎます。1区から9区のうち、
中学生が走る区間は、3区と8区の3
km2区間。どちらで走るかまだ分かり
ませんが、1月16日（日）は、是非皆

さんとテレビ・ラジオ・インターネットで応援しましょう。

大会ホームページ <https://www.womens-ekiden.jp/>

コース <https://www.womens-ekiden.jp/course/>

一年間の無病息災を祈る。鬼火焚きに参加しました。

1月9日（日）に、西菖・東菖地区の鬼火焚きが実施されました。大やぐらを焼いて、
正月飾りについての悪霊(鬼)を追い払う鹿児島の伝統行事です。天気にも恵まれ、高さ4メ
ートルを超える大やぐらに子供たちの代表が点火すると、火はあっという間に勢いよく燃
え上がりました。炎を前に、一年間の無病息災、家内安全などを祈願しました。残り火で
焼いた餅もおいしかったです。家庭・地域と一緒に子供たちを育てていきたい。本
当にありがたいことです。よか年がないもそ。



営火長が子火へ、そしてやぐらへ点火